

A person wearing a dark, quilted winter coat with a fur-lined hood and a plaid skirt is standing in a snowy field. Their arms are raised high, and snowflakes are falling around them. Bare trees are visible in the background.

十日町市

Tokamachi

ぎ"かい
だより

No 46

平成28年
1月25日発行

写真タイトル

Snow flakes (十日町総合高校写真部)

一般会計補正予算

定住促進に関する事業、 市道除排雪経費 などの補正



三ツ山集落の古民家で農家民宿を開業する元地域おこし協力隊と地元の茅葺き名人

【補正予算（第6号）】

昨冬の豪雪により春先の除雪に多くの経費を要したことに伴う除雪費の追加、Uターン者や地域おこし協力隊員の定住促進に関する補助金などの補正を行いました。

【主な事業】

● 定住促進助成事業〈企画政策課〉

・ Uターン者等に対する定住促進助成事業補助金の追加 …………… 260万円

● 高齢化集落支援（地域おこし協力隊設置）事業〈企画政策課〉

・ 地域おこし協力隊員等への起業支援補助金の補正 …………… 300万円

● 高山コミュニティセンター建設事業〈企画政策課〉

・ 高山地区のコミュニティセンター建設に伴う基本設計委託料の補正 …………… 288万円

● 地域自治組織活動支援交付金〈企画政策課〉

・ とおかまち応援寄附金を財源とした活動支援交付金の追加 …………… 515万円

● 私立保育園運営事業〈子育て支援課〉

・ 国が定める保育単価の増に伴う私立保育園運営委託料の追加 …………… 6,210万円

● 医療施設整備等支援事業〈健康づくり推進課〉

・ 施設整備補助金及び設備整備補助金の追加 …………… 2,873万円

● 中山間地域耕作条件改善事業（県単補助）〈農林課〉

・ 耕作条件不利地の環境改善のための補助金の補正 …………… 1,497万円

● 中心市街地拠点施設整備事業〈中心市街地活性化推進室〉

・ 市民交流センター及び市民活動センターの改修工事費等の追加 …………… 2,231万円

● 市道除排雪経費〈建設課ほか〉

・ 市道除排雪委託料等の追加 …………… 4億7,644万円



十日町市の農業振興について

村山 邦一 議員

質問

基幹産業の農業振興は、大きな課題だ。①TPP大筋合意を国は受け入れたが、国会の議決案件にもかかわらず、内容は国民に知らされないまま決まったかのように対策を決定。重要5品目を守る国会決議をも無視したもので、国民の大きな反対の声が上がっている。認識と対応について伺う。②農政改革で農業委員の公選制から市長の任命制となるがどう対応するのか。

答弁

①多くの輸入品が安く購入でき、また日本の優れた農畜産物等が輸出しやすくなるなど、ビジネスチャンスも増え、一定の経済効果はあるのではないかと考えます。一方で、コメは無関税輸入枠が新設されますが、国はその相当量を備蓄米として買上げ、国内流通を実質的に増やさないとしています。関税については現状維持なので影響はそれほど大きくないのではないかと思います。豚肉、牛肉は、関税引き下げで安価な外国産品の輸入が増え、国内価格が全体的に押し下げられる可能性があります。中・高価格帯にある当地域の妻有ポークや和牛肉は直ちに大きな影響があるとは考えていないものの、中長期的には影響を受ける可能性もあると懸念しています。市では影響の兆候

を素早く察知し、適切に対応が取れるよう、国、県、生産者、流通業者等と連携を密にする必要があると認識しています。ピンチをチャンスに変える攻めの対策と守りの対策も検討しつつ、農業所得の向上を基本に施策に取り組めます。②透明性、客観性の確保のため、推薦、公募とし、選考委員会を設置し意見を聞いた上で議会に提案、同意を得て任命したいと考えています。

土地分野で重要な役割を担う農業委員ですので、厳しい農業情勢の中にあっても意欲を持って業務を推進していただける方に着任していただきたいと、積極的に立候補をお願いしたいと考えています。

国会決議＝農産物重要5品目（コメ、麦、牛肉・豚肉、乳製品、甘味資源作物）については、「TPPでの関税削減交渉の除外または再協議の対象とする」、「段階的な関税撤廃も含め認めない」、「重要5品目などの聖域の確保を最優先し、それが確保できないと判断した場合は、TPP交渉からの脱退も辞さない」（2013年4月、衆参両院農林水産委員会決議）。

村山邦一議員作成



健康寿命を延ばす取組みと総合事業の対応について

羽鳥 輝子 議員

質問

人口減少や急速な高齢化が進んでいく中、「健康寿命の延伸」が大きなテーマとなっています。生活習慣病対策、家庭生活の向上、家庭生活を支える社会環境の整備等への対応について伺います。

答弁

生活習慣病対策としては、まず自分の健康状態を把握していただくため、住民健診及びがん検診などの各種検診を受ける人の割合を高めることを重点目標にしています。未受診者には保健師や看護師が訪問により受診を勧奨しています。また食生活や運動習慣の改善が重要であるため、食生活改善推進員と協力して減塩食、バランス食などの普及啓発に取り組んでいます。

家庭生活の向上ですが、高齢者については特に介護予防事業に力を入れ、運動教室や自宅に閉じこもりがちな高齢者の交流の場を広げる事業に取り組む、心身の機能維持、改善を図っています。

社会環境の整備について、生活習慣病のリスクが高い人には特定保健指導を実施し、生活習慣病予防教室を実施しています。また、働き盛り世代の健康づくりの意識向上を目的に健康マイレージ事業を実施しています。

質問

平成29年度から、介護保険制度における総合事業に移行される通所介護、訪問介護について、地域の独自の発想や工夫が求められています。今後の取組みについて伺います。

答弁

総合事業移行により、これまでの指定介護予防事業者だけでなく、民間事業者、有償、無償のボランティアの皆さまなど多様な主体によるサービス提供が可能となります。当市としては、適切なサービス提供ができる担い手の有無等を見極めながら、平成28年度にモデル的に事業に取り組む中でどのサービスを提供していくか選定します。また介護予防給付の現行サービスはそのまま総合事業へ移行します。



男性も健康づくりに参加しましょう！



十日町市農業の行方と 原子力災害対策について

涌井 充 議員

質問 TPPの大筋合意で農業品は8割の品目で関税がなくなりコメなど農業の重要5項目の約3割が関税撤廃される。TPP合意による市農業の影響と3年後の減反廃止による市農業の行方、農地中間管理事業と十日町産魚沼コシヒカリの販売戦略について伺う。

答弁 直ちに大きな影響があるとは思いませんが、懸念される兆候があれば関係者と連絡を密にし、適切に対応します。いわゆる減反廃止後は、競争社会を勝ち抜き生産者、団体等がより一体となる強い産地に向け支援していくことが役割と認識しています。農地中間管理事業を活用し農地の集積と認定農業者の確保を目標に向け取り組みます。コメの販売戦略は、官民協働で需要拡大・販売促進に取り組めます。

質問 安全・安心のまちづくりの観点から原子力災害対策は万全を期さなければならぬ。市民の命を守る避難計画の策定、安定ヨウ素剤の配布と市民への災害情報伝達について伺う。

答弁 県の原子力災害時の広域避難マツチングの方針に基づき、年度内を目標に策定を進めています。また、他市からの避難路でもあり整合性を図るため共同で策定を進めています。県は避

難先と受入側間での受入施設、避難所運営等の調整や災害の種類、状況等に応じて避難先を柔軟に選択できる体制等の検討を示しており、引き続き県等との協議を進めます。即時避難区域での安定ヨウ素剤の事前配布は実施されましたが、避難準備区域では、備蓄分を分散配備するなどの意見もあり、配布方法などは今後の検討課題となっています。災害情報伝達では、現在の複数の伝達手段のほか、状況に応じて広報車や戸別訪問などを複合的に活用し、漏れないよう行います。平成25年度からデジタル式防災無線の整備を進めていることもあり、全情報伝達手段を一元化、連携する総合防災情報システムを構築する計画です。



越後田舎体験事業



十日町市環境基本計画の 実施状況について

高橋 洋一 議員

質問 環境基本計画期間は、2007年から2015年とされ、実施計画は毎年度点検評価し、翌年度の事業実施に反映するとあるが、どのような見直しがされたのか伺います。

答弁 計画の基本データの最新化、放射性物質関係の追記、計画策定後に具休化された事業、例えばエコポイント事業、太陽光発電への補助等を追記する等の見直しを行っています。また、十日町市住みよい環境づくり条例に基づき、審議会で専門的な調査、審議を行うとともに十日町市市民環境会議も設置し、庁内では十日町市環境調整会議を設置して取組みを図っています。

質問 ①一般廃棄物処理計画では、発生抑制、再使用・再利用の推進、協働と連携の取組み、適正処理に向けた取組みについて目標値が設定されていますが達成は可能なのか。②運搬方法の見直しで委託費の削減や売却収入が見込まれるものがありますが現状の検討見直しを行う考えはないか伺います。

答弁 ①総ごみ排出量、総資源化率、最終処分量にそれぞれ目標が定められており、26年度の予測値と実績を比較すると、総ごみ排出量で568tの減量化が図れましたが、最終処分量で

は123tの増でした。総資源化率は目標に4.9ポイント未達の20.3%となり、更なるごみ減量化、資源化に向けた取組みを行う必要があります。②エコクリーンセンターに市民が直接持ち込んだ古紙、空き缶は売却しています。市営で処理した場合の試算は、人件費、機器の保守点検、修繕等で約7千数百万円ほど、施設整備には十数億円単位となる計算です。仮に5千万の売却益が見込めても、今の委託料と同じ赤字が出る試算です。業務委託に関し、議員のご指摘後、市場単価が20%以上動いた場合には見直すという新たなやり方もしていますので、ぜひご理解いただきたいと思います。



大規模改修中のエコクリーンセンター



地域において、切れ目のない 妊娠、出産、子育ての支援を!

宮沢 幸子 議員

質問 子育て世代の家庭形態や就労形態が多様化する中、地域全体で子育てを支え、若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境が求められています。子育ての悩みを気軽に相談できる相談窓口の整備と周知について伺います。

答弁 まずは母体の健康、経済面や育児状況などの課題に対応するため、相談を受ける者は、組織としても非常に責任が重いと思いますし、専門性を高めるべく対応すべきと思います。相談窓口の周知や親しみやすい環境をつくる等、いろんな手段を講じながら専門的な指導を行うほか、同じ悩みを抱える方との意見交換の場も必要と考えます。子育てに関するさまざまな事業を重層的に重ねる中で、情報が的確に届き、安心して出産、子育てに臨める環境を作らなければ、総合計画の土台が揺らぐとも言える大事な事業だと認識しています。

質問 出産前後の母親のケアが少子化対策にとって重要となります。産後ケアセンター設置について伺います。

答弁 大きい市に比べ、当市では産科医が少ない状況にあります。現在は、たかき医院が独自に産後ケアに取り組

まれており、今後たかき医院と相談し、どういった協力や支援ができるか協議したいと考えています。また、現在市では、妊娠届時から不安がある方や、出産に不安を抱える方には、地区担当保健師が随時、家庭を訪問したり相談に応じたりして対応しています。

質問 子育て期間の情報を必要な人にタイムリーに提供するツールとして、スマートフォンを活用した取組みが有効ですが推進できないか伺います。

答弁 スマートフォン文化が急速に普及しているのも事実であり、市として必要な時期にきているのか、勉強させていただく中で、可能性についても検討していきたいと思っています。



アップルとおかまちに移転新設した子育て支援センター「くるる」



柏崎刈羽原発の再稼働は中止 地域防災計画の策定について

安保 寿隆 議員

質問 ① 柏崎刈羽原発再稼働に向けて規制委員会の審査が集行的に行われている。「実効性ある避難計画」について県議会で「国でなければ対応できない課題があり、これらの解決なくしては、被爆を避けうる避難計画はできない」と答弁したがどのようなことか。② 再稼働に当たっては周辺自治体の同意と意見反映が必要ではないか。

答弁 ① 実際に事故が起きて避難指示が出されている中では、労働安全法の制約により対応が難しいという法体制の整備、原災法と災対法の法体系の整備による判断体制の構築、短時間及び複合災害の中での安定ヨウ素剤の配布に係る課題への対応、SPEEDIの予測的活用の仕組みづくりや、各自自治体が行う防災対策、原子力対策へのそれ相応の財源措置、支援をお願いしたいというような趣旨の発言がされています。② 安全性に関して議論が尽くされた後、最終的には県知事から判断していただきたいと考えていますが、その判断の際には当市のような周辺自治体にもしっかりと意見を伝える機会を設けていただきたいと思います。

質問 国は災害対策基本法を改正したが市の地域防災計画は未改定である。

「実効性ある避難計画」について県の見解

県議会では、「権限を持つ国でなければ対応できない課題があり、これらの解決なくしては、被爆を避けうる避難計画はできない」と答弁し、その具体的内容を示した。

- (1) 高線量下で防災業務に従事する者に関する法整備
- (2) 原子力災害と自然災害に関する法体系の一元的見直し
- (3) 安定ヨウ素剤の配布及び服用の整備
- (4) 防備対策実施の判断のためのSPEEDI等の予測的手法の活用などの原子力災害対策指針の見直し
- (5) 防護対策に関する財源措置

安保寿隆議員作成

住民への情報伝達、消防との連携、避難所の増設等の対策が急務では。

答弁 地域防災計画の改定については、当初の見込みよりも修正箇所が多く、関係機関への意見照会に時間を要し遅れています。現在、防災基本条例の策定と並行して進めており、この条例と計画にそごがないよう確認しながら、今年度中の改定を予定しています。情報伝達機能では、既に配備したものと新たなものを両方活用し、瞬時に情報が流れるようなシステムを検討しています。避難所、情報伝達においても過去の災害での反省点があり、それを踏まえて適切なものを提供できるように、全力を尽くしていきます。



十日町市の観光戦略と再生可能エネルギーの活用について

飯塚 茂 夫 議員

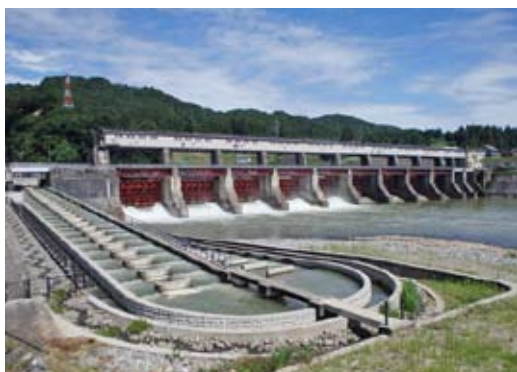
質問 ①大地の芸術祭の総括と今後の展望について②外国人観光客の現状と対応について③雪国観光の推進について

答弁 ①総括として3つのポイントを挙げます。1つ目は交流人口の増加です。過去最高の51万人の来訪者がありました。2つ目は越後妻有全体が美術館になったことです。3つ目は市街地のにぎわいの創出です。今後の展望は2020年のオリンピック、パラリンピックを見据えた第7回展の開催と大地の芸術祭の里として通年の取組みを充実させることです。②平成27年1月から9月までの外国人宿泊者は約2、100人でした。今年度から本格的に外国人観光客誘客事業を開始しており、関係機関と連携し、ニーズ把握やプロモーションを行うとともに受け入れ体制の充実に取り組んでいます。③雪を活かした観光は国内だけでなく海外からも注目が集まっています。外国人の誘客事業など、雪国観光圏とも連携しながら、冬場の観光誘客の促進を図ります。

質問 ①JR宮中ダムの維持流量水を活用した水力発電の進捗状況について②バイオマス発電など再生可能エネルギー

ギー開発の可能性について

答弁 ①現在、ダム本体の構造的な問題をはじめ、技術的な課題について、その洗い出しを行っている状況です。今後は発電所の規模、建設位置、取水方法及び放流ルートなど、ハード面と維持管理や売電方法など事業計画の検討を行い、平成28年度に基本構想の策定を考えています。②既に「ミオンなかさと」「下条みよしの湯」「松之山支所」にペレットボイラーや小型バイナリー発電機を導入しています。今後は第二次総合計画の中で再生可能エネルギー創出30%を目指し、さまざまな施策に取り組んでまいります。



小水力発電を建設予定の宮中取水ダム



大地の芸術祭について

太田 祐子 議員

質問 第6回展が成功裏に終了しました。総括及び課題、今後の方針、展望について伺います。①こへび隊、地元サポーター、地域住民等の関わり状況②ツアー企画や周遊バス・タクの運行状況と乗車人数の検証と課題③宿泊状況と民泊の導入④各種視察状況⑤人気施設等におけるトイレの改修⑥大地の芸術祭の里としての通年の取組み

答弁 ①こへび隊は第6回展では延べ2、212名の参加でした。うち海外こへび隊は85名で、飛躍的に増加しました。地元サポーターについては、150名の登録があり、地元の住民主体で活躍していただきました。地域住民との連携については千客万来事業の活用や作品管理、おもてなしなどを地域自治組織で取り組んでいただきました。②オフィシャルツアーとして7つのコース127本を運行し4、125名の利用でした。今回の新しい試みである周遊バス・タクは10コース956本の運行で1万2、204名の利用でした。利用者の満足度は高かったと感じています。課題もありますが、今後交通事業者を交えながら交通システムの充実を図ります。③市内の宿泊施設は約2、500ですが、会期中、週

末やお盆は予約が困難な状況でした。2020年に向けて宿泊場所を増やすため、民泊についての規制緩和が行われれば、この地域として関わっていくべきと思っています。④全国的な知名度も上がり、地方自治体や民間団体など48団体が視察にきました。海外からも4団体が訪れました。⑤トイレ環境整備についてはしっかりと対応したいと考えます。⑥開催年以外の取組みがまだ浸透していないのが大きな課題です。雪花火など平年のイベントもしっかりと実施して、普遍的な大地の芸術祭の里を目指して取り組みます。



大地の芸術祭第6回展閉会式



十日町市における この先の農業産業について

福崎 哲也 議員

質問

①TPPに対し、政府も大綱を出したが、流通業者では持ち得ない十日町市という名の行政信用を使って行政が先頭になり、農産物のPR、契約栽培の受注を進めるべきと思うが。②農業関係の手厚い行政補助制度を農産物のPR、販売支援、農地紹介など、生産者の所得が上がるような予算シフトをすべきと思うが。③TPPが進めば生産者が直販するシステムの構築も必要と思うが。

答弁

①農業の成長産業化には、課題を克服しつつ、競争社会に勝ち抜くための一層の経営感覚を身に付けることが必要です。生産者には、販路を見極める販売力と経営感覚、高品質な農畜産物の生産技術を、集荷・流通業者には、市場の動きから判断する経営感覚と販売力が必要だと考えます。これらが一体となった強い産地を目指して支援することが、今後の市の大きな役割と認識しています。②市や国の事業を活用し収入を向上させている事例もあり、支援の効果が現れ始めてきていると感じています。当地の農業生産の状況等をしっかりと把握しながら議員のおっしゃる方向に足元を固めて施策を作っていくかなければと思います。③既に、



安心安全でおいしい十日町産のコメと野菜

生産者が市単の「販売力強化支援事業」を活用して、ホームページを全面改修し、オンラインショップによる米の販売を大いに増加させている事例があります。市では、このような意欲ある方を積極的に応援したいと考えています。



市民交流センターと公民館・文化センターの運営を問う

藤巻 誠 議員

質問

市民活動センター・交流センターと文化ホール・公民館の運営について①市民活動センター・交流センターは28年度直営、29年度から指定管理の予定だが、文化ホール・公民館も指定管理で運営するのか。②受託者の職員採用はどうするのか。③市民活動センター一階のギャラリーの活用が重要だが、どう運営するのか。

答弁

①指定管理を基本として現在策定を準備している管理運営計画の中で検討します。②平成28年度は管理運営の一部を中間支援組織に業務委託する予定で、現体制で不足する職員は中間支援組織が採用することになります。③ギャラリーとしての機能だけではなく、他の用途にも対応できる構造となっており、市民の自主的な活動の展示や発表など広く利用していただきたいと考えます。運営は中間支援組織が広報や周知など側面的な支援を担います。

質問

アートのかおるまちづくり事業と「石彫のまちとおかまち」について①市は今後のありかたをどう考えているのか。②石彫アートキャンプの開催と結いの里の継続使用について③来年開催の県展について

答弁

①石彫作品の活用と併せて市民



十日町高校隣に建設中の市民文化ホール・中央公民館

活動センターのギャラリーなどを使い、さまざまな芸術作品を活用した事業展開を図ります。また、地元文化芸術関係者と大地の芸術祭の連携による新しい文化芸術の振興策についても模索していきたいと考えています。②石彫シンポジウムの中で生まれた作品は貴重な財産であり、これを生かすための取り組みとして今年度石彫会が主体で結いの里を会場に石彫アートキャンプ・石彫教室を開催しました。石彫作品制作は町中では難しく、結の里は適地と判断しており、継続使用についても協議を進めています。③来年6月に開催する計画で準備を進めています。



陸上競技場 野球場 副読本
笹山遺跡 日本遺産 鮭観察場

吉村重敏 議員

質問

①十日町市陸上競技場では大会時に路上駐車があり、アップする選手が道路を走っている。これからどうするか。②野球場利用者が減っている。市営三球場はこれからどうするか。③旧市町村の歴史上人物を記載した一冊の副読本を出版したらどうか。④笹山遺跡発掘現場の保存施設建設は可能か。⑤縄文で日本遺産に挑戦しているか。⑥北条時頼の諸国回行自治体で連携して日本遺産に挑戦しないか。⑦飛渡川の道城巻橋を安全な鮭産卵観察場所にできないか。

答弁

①関係機関と協議し、周辺道路利用状況の安全性を把握し、可能な限り整備を進めたいと考えます。ウォーミングアップ場としては隣接の笹山野球場の効率的な活用方法を野球連盟と協議しながら検討します。②野球連盟やスポーツ推進審議会等の意見をお聞きし、運営方針を決めたいと考えます。③ふるさとを愛する子どもを育てるためにふるさととの歴史上の人物を学ぶことは大変価値あることです。学校歴史副読本の作成は考えていませんが、現在、教育委員会では「ふるさと教材」の作成を進めており、名誉市民10名を掲載する予定です。④笹山遺跡を



魚沼地域唯一の日本陸連第2種公認
十日町市陸上競技場

発掘したまま保存することは維持管理や設備費用など多くの課題があるため、一度土を覆いかぶせることで安定的に保存することとしました。⑤北条時頼の諸国回行の足跡については、全国各地に同様の伝承が多くあることからリアル型での日本遺産の取組みは難しいと考えます。⑥橋を観察場とするには橋りょうの改築が必要となり、構造、強度的な課題があります。単独で歩道橋を整備するにも改築に比べて費用がかかることが予想されるため、今後の週上状況を確認しながら総合的に検討します。



総合事業はサービス利用者の
希望が叶えられる事業計画を

鈴木和雄 議員

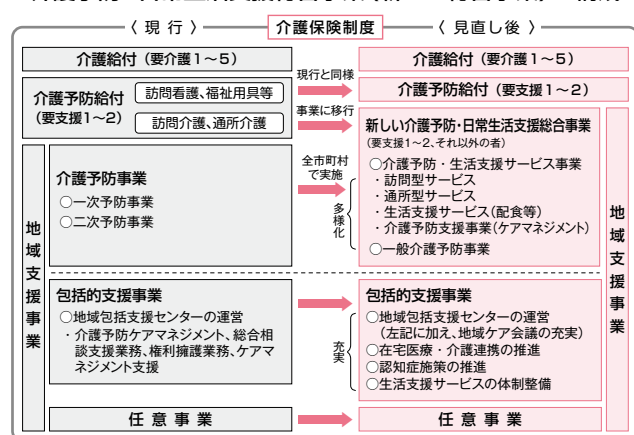
質問

①介護保険の制度改正で、市が実施の総合事業で緩和したサービスの実施が可能になりますが、どのような事業展開を予定しているのか。また、そのサービス単価は。②総合事業では事業の上限額が定められているが、これを理由にサービス利用を抑制しない事業計画を。③特養ホームの入所希望は原則、要介護3以上になったが、入所希望者への対応は。④簡便な基本チェックリストで振り分けを行うのではなく、地域包括センターの専門職が活用すると位置づけるべき。

答弁

①多様なサービスについては適切なサービス提供ができる担い手の有無等を見極めながら、平成28年度にモデル的に事業に取り組む中でどのサービスを提供していくか選定します。専門的なサービスについては、介護予防給付の現行相当サービスをそのまま総合事業へ移行したいと考えています。サービス単価については現行の報酬単価と同等に設定したいと考えています。また、多様なサービスの単価についてはサービス内容等を勘案した上で、近隣市町村との均衡を図りながら設定します。②上限額を理由に専門的なサービスを必要としている方への提

介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の構成



供を制限する考えはありません。状況に応じて多様なサービスを利用していただくことも必要です。③特養ホームの入所を希望する要介護1・2の方でやむを得ない事由がある場合は特例的に認められます。④基本チェックリストは高齢者の状態を把握するための手段の一つです。要介護認定の申請を希望される方に対しては、従来どおり介護認定を進め、継続的に支援が必要の方は包括支援センターを通し、必要なサービスの提供を行います。

REPORT

産業建設常任委員会 視察報告

●管内行政視察

6月26日、管内視察として、まつだい芝峠温泉「雲海」、道の駅「瀬替えの郷せんだ」、「岩瀬トンネル」の3か所を回りました。まつだい芝峠温泉と松代ファミリースキー場は、今年度から(株)上越観光開発が指定管理を受けており、峠社長より、十日町市からの委託料を1円でも減らすことに努めているという大変心強い言葉を頂きました。「瀬替えの郷せんだ」は、一般的な道の駅とは違い、(株)あいポート仙田が指定管理のもと、仙田地区(9集落)の生活の場としてのミニスーパーと農産物の直売所事業、福祉の場としての高齢者の通所事業を行い、地域コミュニティの場としても活かされています。また、農家の高齢化が進行する中で営農委員会を組織し、農業の負担軽減と営農継続のための力となっています。岩瀬トンネルは、国道403号の岩瀬〜白倉間の難所が改良され、長年の地域住民の願いが実現したものであります。3件とも現地視察は現場を実際に確認するとともに、現場の声を関係者から伺うことができ

て、大変有意義でありました。

●管外行政視察

・山梨県北杜市…平成27年11月5日

恵まれた自然資源を活かし、小水力発電や太陽光発電などのクリーンエネルギー導入や植物工場誘致に積極的に取り組んでいます。小水力発電は、かんがい用水を活用したもので、市営1か所、民間3か所が稼働しており、北杜市全世帯の年間電力消費量の10%を賄っているとのことでした。また、農業の企業参入が盛んで25法人が進出。我々が視察した(有)アグリマインドでは、中玉トマトを(株)ガゴメと契約栽培し、オランダの先進技術を導入して、70t/haの収量で普通農場の3.5倍の実績を上げているとのことでした。

・山梨県甲府市…平成27年11月6日

青年層の新規就農者の定着のため、「ワンストップ支援窓口」を設け、相談窓口を一本化し、やまなし(県)農業ルネサンス総合支援事業などとタイアップして、地域農業の推進に効果を上げています。

十日町市におけるJR宮中ダム放流水を活用する発電や農業用水等による小水力発電の導入、また、市の特性を活かした農業の未来について、深く考えさせられた視察となりました。

会派通信

かいほうしん

不羈の会 (ふきのかい)

十日町市では、現在策定中の総合計画の中で、今後10年間で再生可能エネルギー創出30%を目指す計画を立てています。そこで、不羈の会ではバイオマス発電の先進地として宮崎県の川南町を視察しました。川南町は宮崎市から電車で30分の距離に位置し、人口約1万6千人の町です。

ここでは、民間会社の社長が行政の援助をほとんど受けずに木質バイオマス発電に取り組んでいました。総事業費は28億円で平成27年4月に発電プラントの運転を開始しています。(株)宮崎森林発電所社長の山下さんは、農家の出身で現在も露地野菜を30haと年産百万羽の養鶏場を経営されており、平成17年には鶏ふんを燃料とした11万2千kWの発電を始めており、この事業の成功が木質バイオマス発電に取り組む確信となったとのことでした。作業服姿で我々に応対してくれた山下社長は熱心に思いを語ってくれました。説明の冒頭に「発電事業は商売としては楽です。」と切り出され、「商売で一番苦労するのは「売る」ことと「売



年間4,550万kWを発電する(株)宮崎森林発電所

り上げの回収」です。この発電事業は20年間は買い取り先も、価格も決まっているし、営業経費も必要ありません。大切なことは燃料となる木材をいかに安く手に入れるかです。」と自信たっぷりに語ってくれました。木材の収集は収集車両や重機で運搬し、チップ工場で破壊し、チップ化して発電所へ運搬する方法を取っているということでした。年間4,550万kW、一般家庭の一万世帯分の発電を行い、従業員41名の雇用が生まれているとの説明がありました。

十日町市も四方を山に囲まれ、手入れの行き届かない山林が多く見受けられます。今後は山林を有効に活用するために木質バイオマスの可能性を検討する必要があるのではないかと感じています。

12月定例会議決結果

議案番号等	件名	付託委員会 審査結果	採決状況	議決結果
市長提出議案	122 人権擁護委員候補者の推薦（相澤きよえ氏）	－	全員賛成	同意
	123 建物の無償譲渡（旧清田山冬季分校地下倉庫）	－		原案可決
	124 第二次十日町市総合計画基本構想の策定	総務文教 可決	賛成多数	原案可決
	125 十日町地域広域事務組合理約の変更		全員賛成	原案可決
	126 十日町市行政財産使用料徴収条例の一部を改正する条例制定		賛成多数	原案可決
	127 十日町市防災基本条例制定		全員賛成	原案可決
	128 十日町市税条例等の一部を改正する条例制定		賛成多数	原案可決
	129 十日町市入湯税条例の一部を改正する条例制定		賛成多数	原案可決
	130 指定管理者の指定（十日町市総合体育館ほか10施設）	産業建設 可決	全員賛成	原案可決
	131 字の変更（当間地区）			
	132 字の変更（上川手地区）			
	133 十日町市産業拠点強化を促進するための市税の特例に関する条例制定			
	134 十日町市シェアハウス条例制定		賛成多数	原案可決
	135 十日町市里山文化交流施設条例制定		全員賛成	原案可決
	136 十日町市まちなかステージ条例制定		賛成多数	原案可決
	137 十日町市公園条例の一部を改正する条例制定	厚生環境 可決	賛成多数	原案可決
	138 地籍調査事業による住所表示の変更に伴う関係条例の整理に関する条例制定		賛成多数	原案可決
	139 指定管理者の指定（まつだい雪国農耕文化村センター等及び十日町市まつだい郷土資料館）		賛成多数	原案可決
	140 指定管理者の指定（十日町市オーストラリア・ハウス）		賛成多数	原案可決
	141 津南地域衛生施設組合の共同処理する事務の変更及び津南地域衛生施設組合理約の変更		賛成多数	原案可決
	142 十日町市印鑑条例の一部を改正する条例制定		賛成多数	原案可決
	143 十日町市住民基本台帳カードの利用に関する条例の一部を改正する条例制定		賛成多数	原案可決
	144 十日町市個人番号カードの利用に関する条例制定		賛成多数	原案可決
	145 十日町市地域保育所条例の一部を改正する条例制定		賛成多数	原案可決
	146 指定管理者の指定（羽根川荘）	－	全員賛成	原案可決
	147 指定管理者の指定（平成園）			
	148 指定管理者の指定（十日町市川西福祉センター）			
	149 指定管理者の指定（十日町市斎場）			
	150 平成27年度十日町市一般会計補正予算（第6号）			
	151 平成27年度十日町市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）			
	152 平成27年度十日町市国民健康保険診療所特別会計補正予算（第3号）			
	153 平成27年度十日町市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）			
	154 平成27年度十日町市介護保険特別会計補正予算（第3号）	－	全員賛成	原案可決
	155 平成27年度十日町市簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）			
	156 平成27年度十日町市下水道事業特別会計補正予算（第3号）			
	157 平成27年度十日町市水道事業会計補正予算（第3号）			
	158 新潟県市町村総合事務組合理約の変更			
議会提出議案	20 議員派遣	－	全員賛成	原案可決

賛否等の状況

賛否が分かれた議案のうち、起立採決等により個々の賛否が明らかな議案について掲載。
 (○：賛成、×：反対、－：欠席) ※議長は議決に加わらず。

議案番号等	議決結果	賛成	反対	政策クラブ 自由の風					木曜の会				三矢会				いしづえ 礎				日本共産党 十日町市議団				市民クラブ 凛				
				近藤紀夫	羽鳥輝子	遠田延雄	吉村重敏	藤巻誠	高橋俊一	飯塚茂夫	仲嶋英雄	庭野政義	涌井充	小嶋武夫	高橋洋一	鈴木一郎	村山達也	小林弘樹	宮沢幸子	福崎哲也	大嶋由紀子	村山邦一	安寿隆	鈴木和雄	太田祐子	小林均	小野嶋哲雄	川田一幸	
124	原案可決	21	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※
127	原案可決	20	4	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※
129	原案可決	17	7	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	×	×	※
136	原案可決	21	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※
139	原案可決	21	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※
142	原案可決	21	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※
143	原案可決	21	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※
144	原案可決	21	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※
145	原案可決	21	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×	※

4 日、傍聴に行ったら、1日に行った時よりも、空気がきんちょうしている感じで、私まできんちょうしてしまいました。議員さんも、男性の方が多くてビックリしました。

「議員の方やその他の方たちも、自分が話している時はきんちょうすると言っていた」と、前回の質問の時に答えてくださっていました。でも、傍聴したら、きんちょうしているように見えませんでした。きんちょうを人の前で見せないのは、とてもすごいと思いました。そして、見習いたいと思いました。

毎 月家で目にしている「市報とおかまち」といっしょにでている「市議会だより」に、議会で決まったことが“全て”書いてあると聞きました。「市報とおかまち」も「市議会だより」も家にあると思うから、家の人たちとじっくり読んでみたいです。

議 会話を聞いて、市長さんや議員さんは、十日町を良い市にしようとがんばっているから、市民の私達も簡単なことだけど、ゴミ拾いをしたり、ポイ捨てをしないことを守ったりして、「ゴミ0」を目指していけたらいいと思いました。もし、友達がポイ捨てをしていたら注意をして、「ゴミ0」を目指したいと思いました。

始 まる前は、傍聴席にすわるのは初めてでとてもドキドキしていました。始まると議員の方や、市長さんが台に立って発表していました。

「人権」のことについて話していて、ここでも市民のことを考えて話しているんだなと思いました。難しい言葉もあったけれど、本物の議会を見ることができてうれしかったです。

1 日の見学で、議員さんの席と議長さんの席にすわって質問をした時とはちがって、4日は市長さんや議長さん、議員の方がとてもいっぱいいてびっくりしました。

「起立採決」をしてその意見に賛成かなどを早く決めていたのですねと思いました。

「起立採決」をする前に議員さんが説明をしていて、それから、そのことについて話したり「起立採決」をしたりすることが分かりました。

後ろの席には、記者席もあることが分かりました。

主 に、議会で決める内容で多いのは、「すみよい毎日をおくるためにどんな事をすればよいか」でした。いつも議会でこんな事を決めていてくれているのは知らなかったし、とてもうれしい気持ちになりました。

議 会 傍 聴

12月1日と4日の両日、西小学校の6年生35名が市役所見学と議会傍聴に来られました。

4日の議会傍聴後に、全員から寄せられた感想の一部をご紹介します。



内 容は、難しい言葉や難しい事であまり分からなかったけれど、最後までしっかりと聞くことができました。

最後の話の方で、市長の関口さんが「少子化」と「高れい化」という言葉（キーワード）を使っていました。社会の教科書に書いてあったように「今、若い人が少なくなっていて高れい者が年々、多くなってきました。」とおっしゃっていました。一方で、「元氣な高れい者が増えてほしいです。」ともおっしゃっていました。

傍 聴していて気づいたことがあります。それは、私たちが学級活動でやっている話し合いに、にているところです。

私は「十日町をもっと住みよい場に」「十日町を選んでもくれるように」と、たくさんの方たちが議会に参加して話し合っているのを見て、たくさんの方が十日町をよい市にしてくれているんだなと思いました。

皆さんも市議会を 傍聴してみませんか!!

次の3月定例会は、3月初旬に予定しています。

詳しくは議会事務局へご照会ください。

☎025-757-3119 (直通)

2015
11.9
市議会主催

「まちづくり講演会」を開催しました

11月9日にクロステンを会場に、県立十日町病院院長の塚田芳久氏を講師に招き「魚沼医療再編と地域医療構想」の演題で開催いたしました。

塚田院長のお話では、現在、十日町病院は平成28年度の新外来棟開院に向けて着々と工事が進んでおり、4階建ての外来棟と7階建の入院棟の一部が建設され、内装工事も順調とのことでした。地盤が良いため、くい打ちが不要で、基礎は4mのコンクリートで固め、良質な免震ゴムを設置し、水・重油などのライフライン資源は地下に貯蔵されるそうです。

また、医師数はこれまでで一番多く、充実しているそうです。今春から市独自の施策として開始された「医師派遣大学寄附事業」「医師研究資金貸与事業」による成果が大きく、来年度に向けて、大変優秀な臨床研修医が応募してくれ



講演をする塚田院長



たことを大変喜んでおられました。塚田院長は、県医師会理事、日本医師会理事、全国自治体病院協議会理事の要職を務めているため、社会保障と税の一体改革の経緯や、必要な時に必要な医療・介護サービスを受けられる社会に向けての所見や、地域における医療及び介護を総合的に確保するための仕組みづくり、在宅医療、在宅看取り、十日町地域包括ケアシステムのモデルイメージ等、多岐にわたる内容をわかりやすくお話しされ、最後に、看護学校の必要性を熱く語っていただきました。

表紙写真について

今号の表紙は十日町総合高校写真部の作品です。

十日町総合高校写真部



十日町総合高校写真部は女子9名で毎日作品作りを中心に活動しています。今年は例年より少雪ですが、雪国ならではの暖かい日常をたくさん撮影していきます。

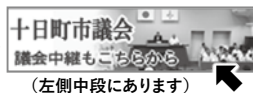
音訳版の「ぎかいだより」の配信を始めました

「ぎかいだより」発行日の約2週間後からご利用いただけます。

ご利用方法

十日町市ホームページ →

→ 市議会だより



インターネットで本会議の様子を配信しています!

定例会の生中継や過去の本会議をパソコンで視聴できます。



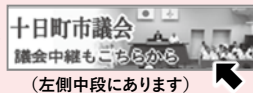
視聴方法

十日町市ホームページ →

→ 議会中継

<http://www.tokamachi-city.stream.jfit.co.jp/>

* 会議録の検索は **会議録の検索と閲覧**



あとがき

昨年は、地方創生元年でした。新しい年を迎え、さらに十日町市も十日町流で十日町らしさを生かし努力していかなくてはなりません。地方創生が上手いかわからない理由は3つのパターンがあり、①やり放しの行政②頼りつ放しの民間③全然無関心の市民。この3つが融合すると地方創生は絶対に上手くいかないと言われていきます。議会は行政のチェックをしつかりしつつ民間企業の状況を把握し、そして市民の皆さんが主役です。で市民の皆さんに関心を持っていたら、「選ばれて住み継がれるまちとおかまち」にしなければなりません。一緒に歩んで行く一年にしましょう。

大嶋由紀子

【お問い合わせ】

十日町市議会事務局

〒948-8501

十日町市千歳町3丁目3番地
市役所本庁舎3階

電話 025-757-3119

FAX 025-757-5999